

日川イノベーション～文武両道を科学しよう～

紫風

発行所
山梨県立日川高校
編集
新聞部
写真
写真部
山梨市一町田中
1062

紙面紹介
1面
日川イノベーション
独自の奨学金制度
紫風祭
2面
野球応援
全国大会出場部
学食ハンパねえ

合い言葉は「ア！来た」
あかるく、きびしく、たくましく

「ア！来た」って何が来たの？
それは**幸運の女神さま**。あかるく、きびしく、たくましく、毎日を大切に過ごす人に、女神さまはほほえむのです。部活も勉強も、二者選択じゃなくしてすべてチャレンジする。それこそが日高生の目指す姿なのです。

自分で考え発信できる生徒に

日川高校では、大部分の授業でアクティブラーニングを取り入れている。

「初めは戸惑いがあったが、グループで教え合ったり新しいことを発見したりしていくのが楽しいと思うようになった。」「小さいグループだから質問するのも恥ずかしくない。」「居眠りをするクラスメートがなくなった。」「勉強の理解が深まった。」等々、生徒の感想を載せてみた。以前のような授業を支持する声がないわけではないが、話を聞いた私の友人たちにはおおむね好評のようだ。



化学の授業風景

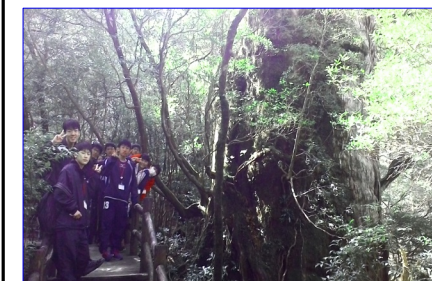
部活動の効率化

文武両道の日川高校において部活と学習の両立は大きなテーマである。

現在、七時完全下校が実施されている。ただ、だらだらと長時間練習をすればいいものではない。七校時終了後、みんな協力してできるだけ早く掃除を終わらせ、部活に入る。週1日部活を休むことも決められている。そうすることで学習時間を確保しているのである。

SSHの活動

日川高校は文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている。その指定も、昨年度から第二期に入った。その結果、これまで一クラス中心で行ってきたのだが、現2年次生からは対象が全部の生徒に広がった。具体的には全員が課題研究をするようになった。課題研究は広い意味での科学をテーマに自分で問題を設定し、研究し、発表していく授業だ。この文を書いている筆者は文系なのでそれは困ると思ったが、



3月の2年次の種子島・屋久島へのサイエンスツアー。屋久杉の前で。

自然科学の分野に限らず論理的に考える力を育て、プレゼンテーション能力や表現力を高めるそうだ。なんと「副題に『文武両道を科学する』」ってつけたくらいだから科学的な見聞を広めるサイエ

ICTの授業とClassiの活用

最近「ICT」という言葉をよく聞く。学校ではコンピュータ技術を活用した教育という意味で使われることが多いようだ。日川高校では各クラスに大型モニターテレビがあって、コンピュータにつないで行う授業が多くなっている。特に英語では毎時間利用し、質問や答え、文章の背景などが瞬時に映し出され、わかりやすい。生徒の発表の際にも利用されている。

また、「Classi」の活用も県下で最も進んでいるそうだ。これはスマホに入れて様々なことに使っている。宿題やテスト範囲の発表、テストの答えの配布、アンケートの回答など。また担任との意見交換にも使っている。入試では調査書の代わりに「eポートフォリオ」というものを提出させる大学が出てくるという。毎日の自分の活動と苦労したこと、それから学んだことなどを記録してためていくのだそうだ。これからその記録にClassiを使っていくようになるらしい。まだまだ新しい利用方法が考えられていくだろう。

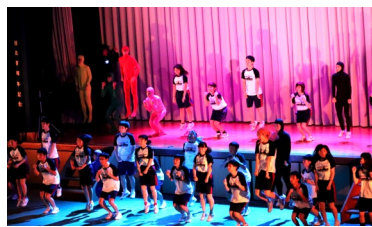


サイエンスラボの様子。

ンスツアーも全員を対象に募集している。一年生は関東方面、二年生は岐阜・愛知方面、年度末には種子島・屋久島方面に行く。また最先端の研究者の講演会を聞いたり、サイエンスラボや宇宙の学校のボランティアをしたりなどいろいろな活動をしている。

紫風祭

六月二十九日、三十日の二日間に行われる「MOMENT」のテーマのもと、第六十八回紫風祭が開催された。文化局クラブによって紫風祭は日ごろの成果を発表する大切な場だ。吹奏楽部、演劇部、音楽部の発表、その他の部の展示にも熱が入っていた。



3年生のクラス発表。全員のダンスはエネルギーの大爆発だ。

全クラスがステンドグラスとクラス旗を作成し、クラス発表(1年合唱、2年ダンス、3年クラシック)が行われた。



まるでヨーロッパの教会のようなステンドグラス



日川コレクションの作品は開会式で披露されます。

独自の奨学金制度

本校には学業・部活動の奨励のため、独自の奨学金制度がある。「日川奨学金」「赤尾奨学金」「山岡特待生」「部活動後援会奨学金」「黒澤亮平教育振興会」「中村公卿奨学会奨学金」などである。

今年も七月二十日(金)、「赤尾」「日川」「山岡」の各奨学金が三十八名の生徒に授与され、全校生徒からの拍手を浴びた。

赤尾奨学金は、本校卒業生で旺文社の創業者である赤尾好夫さんが後輩のため贈り続けてくださったものである。中村公卿さんも同様の先輩方である。このような皆さんの先輩方が私たちに応援してくださっている。私たちは本当に幸せだと思ふ。

みなさんもぜひ日高生になって奨学生を目指してみては？



7月19日全校応援、野球部ベスト8



今年の夏は、記録的な猛暑が日本列島を襲った。山梨では連日40度に迫るような猛暑が続いた。そんな中、太陽にも負けない熱い心で挑んだ県高校野球大会、そしてインターハイ、全国高等学校総合文化祭に出場したクラブを紹介したい。

今年も熱かっただぞ日高生の夏

高校野球は特別だ。戦っている選手たちにとつてはもちろんだが、応援する私たちみんなにとつても特別である。高校野球ほど**青春**を感じさせてくれるものはない。炎天の下、声をからして校歌を歌い、拍手を送る。グラウンドと応援団がまさに一丸となって勝利を目指す。それがたまらない。

今年3回戦、帝京第三高校戦が全校応援となった。試合は先攻されて追いつき、また点を取られてという展開で2対3で惜敗した。今年の成績はベスト8進出ということが終わった。夏の甲子園5回目出場の夢は来年に託された。皆さんも来年は一緒に応援しよう。

こぼれ話

今年山梨県大会も第一〇〇回の記念大会。開会式では、県内の音楽部員がオーディションを受けて、国歌と大会歌を独唱した。本校二年生の荒居大晟君が選ばれて「栄冠は君に輝く」を熱唱、会場から大きな拍手を浴びた。

インターハイ



3年の安田優歩君、和泉川岬君、2年の市瀬晃也君が出場。

「表彰台からむ戦いはできませんでしたが仲間の応援もあり最後まで全力で戦いました。来年は後輩たちのリベンジに期待します」
(3年安田君優歩君)

女子ハンドボール部



「3年生にとつては最後の大会でもあり、会場の雰囲気は張りつめた感じでした。」

その中で戦うことが出来て、3年間で一番心に残る大会になりました」(3年田中優衣さん)



得点を決めて喜ぶ

が、まだまだ満足できないようです。

体操部



けが人が多いい、それぞれがやらなければならないことが明確になった試合になりました。来年のインターハイでは決勝に進めるように頑張りたいと思います。」
(3年三枝大祐君)

自転車競技



3年生の武井稜哉君が2年連続で出場した。

他の全国大会

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

「優勝を目指したインターハイ。決勝では守りの走りをしてしまいました。優勝どころか入賞すらできませんでしたが、国体ではこの悔しさを晴らし優勝していきます！」

全国総文祭(文化局のインターハイ)



2年の初鹿野海雄君が朗読部門に出場。「今大会で読んだのは辻村深月さんの作品です。自分の一番好きな一節を大勢の前で表現できてとても嬉しかったです。今後作者の思いを伝えられるよう頑張ります。」

音楽部



総文祭では大勢の合唱が好きな仲間と歌うことができた。」
(3年土屋隆輔君)

吹奏楽部



この夏、吹奏楽部は全国総文祭に参加し、山梨県吹奏楽コンクールでも金賞を受賞、西関東大会出場を決めました。様々な県内外のイベントに参加できて嬉しく思います。」
(3年平塚夏美さん)

文学部



短歌部門の県代表として、3年生の角田菜々花さんが参加。歌会を通して各県代表と交流し勉強してきました。」

学食 ハンパねえ

今年3月、本校の学食を43年間運営してくださった後藤ご夫妻が引退され、4月からOBの根津さんが新たなマスターに就任した。根津さんは、伝統のタンメンの味を3月のうちに習いに通ったという努力家。伝統の味に加えて、ラグビー部OBらしく野菜の多い体作りに配慮したメニューを開発して、大人気になっている。

特に**夕方営業するようになった**のはうれしいところ。部活後、コンビニでおにぎりなんか買うよりずっといい。塾前に利用している生徒もいる。学食がある高校は県下でも少ない。日川高校のちょっとした自慢だ。



これがタンメン



夕方の定食

大満足♥



◆実は高校生活は苦しいことも多いんです。そんな時日川の仲間や学校行事は、あなたに乗り越えていく力を与えてくれます。

- 四月 入学式
- 創立記念日
- 五月 山梨県総合体育大会
- 六月 関東大会
- 七月 紫風祭
- 野球応援
- 八月 インターハイ
- 全国総文祭
- 九月 強歩大会
- 前期終業式
- 十月 後期始業式
- 新人戦
- 十一月 修学旅行(2年)
- 十二月 ラグビー応援
- たぶん花園ラグビー場
- 二月 スキー教室(1年)
- 三月 卒業式
- 球技大会
- 終業式

日川高校の一年